

編集後記

先日、横浜で行われた第4回日本眼科AI学会総会に参加しました。眼科領域でのAI実装はもう少し先の話ということにはなりそうですが、先駆けて何が起きているのかということを感じ、考えるとても良い機会になりました。基礎実験をするAIロボットだそうです。自身でも基礎研究をしたことがありますが、Northan blottingの際に、コンタミで失敗なんてことがしばしばでした。温度も時間もコントロールされ、ピペティングの量や速度もコントロールされ、実験結果はほぼ完全に再現されるそうです。実験の実務に費やされてきた時間を、結果から先を考える時間に充てれば良いということで、まさにAIアシストです。手術のインシデント防止のためのAIシステムもすばらしい実用だと思いました。それでも起きたインシデントは、AIが間違いと判定しているのに、医療者側がそれを聞いていなかったなどだそうです。私たちがAIとの共存に慣れていく必要があるのかもしれませんが、特別講演は国立情報学研究所の新井紀子先生で、AIは計算機、正規分布の真ん中を示してくれるだけ、という理論にはなるほどと納得しました。とはいえ、AIは画像処理が得意で、人間では気がつかない現象を見つけてしまいます。画像生成AIなるものを試してみたことがありますが、キーワード入力だけで、

時々ですが自分ではまったく思いつかないような魅力的な画像を作ってくれたりします。今後の展開を見守りたいと思います。

さて、今回の特集は「珍しい真菌の角結膜感染」です。眼に関する真菌感染症はまれではありますが、一度、生ずると診断、治療にしばしば難渋します。細菌感染と鑑別しなければならない症例、ときには合併する症例がみられます。今回は特に珍しい真菌を取り上げており、たいへんに興味深い特集になっています。綜説では「MRIによる緑内障患者の脳構造変化と機能」について概説していただきました。MRIによって緑内障の早期から脳構造変化を捉えることができる。AIとの馴染みが良く、将来的には視野などの視覚機能を推定するシステムにつなげることができるかもしれないとのこと、大いに期待したいと思います。機器紹介に取り上げられた「ビジョンスクリーナー」は、既に小児の眼科診療、検診に欠かすことのできない重要な機器になっています。その特性を良く理解し、日常の診療により広く、的確に用いていきたいところです。その他にも、興味ある症例報告など、全体としてとても充実した内容になっています。先生方の眼科診療のアップデート、スキルアップにお役立ていただけますと幸いです。

(福地健郎・記)

編集：後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均・根岸一乃・福地健郎
編集顧問：小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治
飯島裕幸・坪田一男・富田剛司

「眼科」 第65巻 第13号 12月号

2023年12月5日発行（毎月1回5日発行）

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

年間講読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 (株)文京メディカル 03 (3817) 8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。